



Inclusive Japan

特定非営利活動法人インクルーシヴ・ジャパン

平成 29 年度活動報告書

ごあいさつ

インクルーシヴ・ジャパンは、障がいのある人もない人もお互いに尊重し合う豊かな共生社会の実現に向けて設立いたしました。ご利用いただきます方々の意向を尊重し、喜んでいただける多彩なサービスが提供されるよう創意工夫いたしております。同時に、個人の尊厳を保持し、自立した社会生活を営むことができるよう丁寧に支援していきます。これまで育んで参りました医療・福祉の実績による発展充実と信頼あるサービス提供を確立させ、愛情あふれる魂の込められた人間研鑽に努め、地域社会に貢献していく所存でございます。関係各位の皆様におかれましては、ご指導の程よろしくお願ひいたします。

理事長 松岡邦彦（精神科医）



2017 年 愛媛県障がい者アート展 優秀賞受賞「キラキラヒカル」Tさん



2017 年 心の美術展 受賞 Nさん



アートでひらく

私たちの暮らしにおいて、アートはまだまだ非日常的なもので福祉サービスの世界においても、アートを主としている就労継続支援事業所は身近にありませんでした。特別支援学校等で伸び伸びと創作活動をしていた人たちは卒業後どうしているのだろう？何も語らずただただ創作に集中して生み出された魅力溢れる作品を広く知ってもらえないものか？アートの世界では、障がいによる様々な制限も持ち味に、繊細な感覚も勢いになり、その方の魅力となって、まったく新しい価値が生まれます。アートを媒体にしないなんてもったいない。「Art is Life」、そんな思いから誕生したのが「インクルーシヴ・松山・ヒカリのアトリエ」です。5月1日で開所から1年が経ちました。福祉の世界にとどまらず、一般社会に繋がっていくことを大切にしたくてあえて、福祉の世界が初めてのスタッフばかりでスタートしました。開所以来ご利用の方お一人おひとりから新しく学びながら、皆で高め合い、支援の力を育んできました。ご利用の方々もこの1年でそれぞれのペースで独自に変化をされています。新しい価値が生まれる初めての瞬間を一番近くで見届けることができる喜びを、スタッフ一同日々感じております。今後、さらに、多彩な表現やその価値を社会へ伝え広げるために、ここに活動の成果を報告いたします。

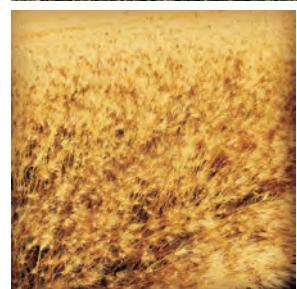
インクルーシヴ・松山 ヒカリのアトリエ

「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」に基づく指定障害福祉サービスの就労継続支援B型事業所です。何らかの障がいのため一般企業に雇用されることが困難になった方や、一般就労に向けて訓練したい方などに利用していただいています。描くことや作ることがお好きな方々が通われています。

活動について



ヒカリのアトリエでは一般就労に向けての訓練の媒体がアートやクラフトです。それぞれの方がご自分の目標を達成するために通われています。毎日コンスタントに通えるようになりたい方、人との関わり方を学びたい方、ご自分の表現を追求したい方等、様々です。それぞれの障がい特性に応じて、パーテーションで空間を区切ったり、明るさを調節したりして、それぞれの方が落ち着いて制作に集中することができる環境作りを心掛けています。ご利用される方々は、表現したいことが溢れてくるときにはご自身の創作活動に没頭されています。ご自身で何をしたらいいか分からない時には、作品制作の一端を担う作業に集中されています。例えば、紙すきに使うパルプはすべて自家製で、牛乳パックを切り水につけ、表面の印刷をはがし、ミキサーで攪拌して作ります。その一つひとつの工程で、人の手の力が必要です。午前中は絵を描くけれど、午後からは他の作業をする、という方もいらっしゃいます。スタッフも、ご利用される方の障がい特性に合わせた配慮をしながら、一緒に、初めての作業をしたり、画材や素材の研究をしたり、パッケージングやラッピングの研究をしたりして、日々、創作しています。



はじまり

開所した昨年5月、ご利用の方が3名からのスタートでした。スタッフも初めてのことばかりです。新しくご利用の方が来られるたびに、その方から学び、必要とされる環境を作り、ともに制作の幅を拡げていきました。6月にはご利用の方は6名になり、その後も毎月数名ずつ、確実に増えています。

あれこれ

ヒカリのアトリエを作るきっかけとなったのは、2016年10月5日、愛媛県主催の『福祉をかえる「アート化」セミナー』に参加したことです。「アートを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、すべて人の権利」という考え方のもと、アートやデザインの力を問い合わせ直し、生活を豊かにすること、仕事につなげること、地域を豊かにすることを考えました。6月には、企画協力されていた「NPO法人エイブル・アート・ジャパン」代表理事の柴崎由美子さんが、できたばかりのヒカリのアトリエに来てくださいました。全国の多くの事業所で、「福祉×アート」のお仕事に関わってこられた柴崎さんのアドバイスは、現実的で細やかで温かく、たくさんのヒントと勇気をいただきました。



ヒカリのアトリエの誕生前に、大阪の「アトリエ インカーブ」さんを訪問しました。「アトリエ インカーブ」さんでは、ご利用の方々も、スタッフの方々も、みなさんが笑顔。それぞれのペースで落ち着いて制作されています。クリエイティブディレクターの今中博之さんからいただいた、「**大きなものにも、小さなものにも、遠くにも、近くにも、ヒカリは届くといわれています。**」という言葉を、ヒカリのアトリエの信条とし、パンフレットやカレンダーなどにも使わせていただき、心に刻んでおります。



今中 博之さん



「アトリエインカーブ 現代アートの魔球」



「観点変更—なぜ、アトリエインカーブは生まれたか」

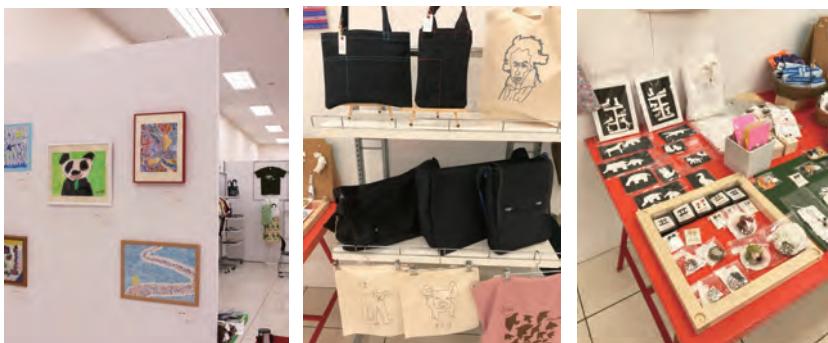
産まれ育む

7月、印刷物の素材としての原画イラストの依頼を「NPO 法人エイブル・アート・ジャパン」さんよりいただきました。ご利用の方々みんなで、愛媛県を代表するものは何か考え、案を出しあって、描いていったイラストが、実際に**48時間デザインマラソン**のチラシに採用されました。ヒカリのアトリエの初仕事になりました。



松前町の「エミフルMASAKIギャラリー」での合同展示

9月2日から18日まで、松前町の「エミフルMASAKIギャラリー」にて作品の合同展示をさせていただきました。お声がけいただいた「社会福祉法人金亀会 障がい者支援施設スマイル」さんには、素晴らしい表現をされる作家さんが多くいらっしゃいます。ヒカリのアトリエからは「**はじめましての展覧会**」として、ご利用の方々の作品を初公開。2週間という展示期間中、多くの方にお立ち寄りいただき、また展示作品の購入もしていただきました。



9月13日、14日には、愛媛県主催「障がい者文化芸術祭～アーツポンチえひめ～」に参加しました。絵画の展示だけではなく、バッグやアクセサリーやはがきなどのクラフト作品の販売もさせていただきました。

障がい者文化芸術祭では、「障がい者アート展」の授賞式も開催され、ヒカリのアトリエをご利用の方の作品が優秀賞をいただきました（1ページ参照）。会場では2日間に渡り、受賞されたご利用の方のライブペインティングもさせていただき、80号という大きなキャンバスの上で移り変わる色彩構成を、多くのお客様に体感していただきました。



10月7日、地域とつながりが深く、ヒカリのアトリエの協力医療機関にもなっていただいている「医療法人光佑会くろだ病院」主催の「くろだふれあい秋祭り」に出展させていただきました。



11月、第55回愛媛県精神保健福祉大会「心の美術展」において、ご利用の方の作品が、参加者の投票により賞をいただきました（1ページ参照）。

11月11日～26日、「株式会社ホンダ四輪販売四国 Honda Cars 愛媛 松山空港通店」にて「インクルーシヴ・松山 ヒカリのアトリエ展」を開催させていただきました。ギャラリーのようなショールームに絵画作品を展示させていただき、多くの方にご来場いただきました。イベントに合わせて、ご利用の方の作品をもとにデザインした木の栄を、Hondaさまのノベルティグッズとして採用していただき、多くのお客様に配布していただきました。



ノベルティグッズに採用された木製しおり



「Honda Cars 愛媛 松山空港通店」

12月4日～10日、ヒカリのアトリエのある松前町主催「障がい者アート展」に、12月18日～22日、伊予市主催「心から夢を描く～ぬくもり・輝きアート展～」に、それぞれ出品させていただきました。地域の方々にヒカリのアトリエの活動を広くご紹介させていただきました。

12月22日、「全日本自動車産業労働組合総連合会」様より、画材の寄贈30万円相当分)をいただきました。キャンバスやボード、アクリル絵の具などを購入させていただき、日々の制作活動に使わせていただいています。



寄贈式の様子と寄贈品の一部

学びひろげる

48時間デザインマラソンのイベントで、株式会社フェリシモ「C.C.P(チャレンジド・クリエイティブ・プロジェクト)」チームリーダー、「UNICOLART」代表の芦田晃人さんより、商品化についてのお話を伺いました。

ヒカリのアトリエでは、ご利用の方々と一緒に、様々なジャンルの展覧会を見に行きます。8月21日、写真家の岩合光昭さんの写真展に行きました。ご利用の方の中には、自宅で猫を飼っている方も、写真を撮影している方も、何人かいらっしゃいます。猫の目線になって撮影された写真は、身近であり、興味深く、多くの刺激を受けられ次の制作への意欲を高められたようでした。

9月12日、13日、14日には、エミフルMASAKIで開催していた愛媛県主催の障がい者文化芸術祭に行きました。出展されているご利用の方の作品を見るために、ご自身で何度も足を運んでくださった方もいらっしゃったそうです。また、ご家族の方々や知り合いの方々も足を運んでくださり、ヒカリのアトリエのある地域での開催は非常に嬉しく、ありがとうございました。



9月24日「アトリエインカーブ」設立15周年の記念シンポジウムに参加しました。「障がいのある人の創作と市場」と題された、東京大学の松井彰彦教授とアトリエインカーブの今中博之さんとの貴重な対談でした。「福祉」の視点で語られることの多かった「障がいのあるひとの創作」について「市場」を切り口に熱い議論がなされました。また、国内外のアートフェアや作品を市場につなげるための準備についても、お話しをお伺いすることができました。

11月23日、愛媛県美術館へ「ひつじのショーン展」を見に行きました。ご利用の方々も、立体の人形制作やアニメーションの作り方にも興味を持たれ、真剣に見られていました。

3月4日、5日、愛媛大学で開催された「誰もが参加できるミュージアムを目指して」四国ミュージアム研究会に参加しました。鑑賞者としても提案する側としても同じチャンスが与えられることが当たり前の社会になつたらと思います。

3月15日、22日、25日には、「えひめICTチャレンジド」さん主催の「作品×デザイン」ワークショップに関わりました。「BIN DESIGN OFFICE」さんとペアになり、素材としての現時点の作品をどのように商品化していくか、デザイナーの方とコラボレーションして意見を出し合い形にしていきました。



支援の今

自分の内なるものを表現し作品にしていくということは、日々自分と向き合う作業です。無意識下に押し込めていた自分と対峙することにもなり、辛いことでもあります、自分と向き合うことで新しい自分を発見することもできます。アートは自分の本質を探っていくうえでのサプリメントにもなっています。

ヒカリのアトリエで生み出されるアートが、作品や商品として身近な人に評価されたり、社会に受け入れられたりすることで、自信を取り戻し自己肯定感が生まれます。ヒカリのアトリエは一般社会に出る前段階、支援の目も手もあり、試行錯誤ができる環境です。失敗することで課題が見つかり次のステップへ進めます。アートは訓練のための媒体であり、手段でありツールでもあります。

ご利用を始めたころは、他のご利用の方の制作の様子や作品が気になってしまい、ペースを崩される方も多くいらっしゃいます。リラックスしてマイペースに制作しているときに生まれた作品には、その方の持ち味が最大限に生かされ、見る人にも力を与えます。アートは言葉を超えて、コミュニケーションにも豊かなバリエーションをもたらしてくれています。

一般就労を目指してご利用されていた方が、この春、ご利用を卒業され、ヒカリのアトリエのスタッフとして働くようになりました。ご利用当初は、週に数日、短時間からのご利用で、お休みをされてしまうほどの波も幾度ありました。ご卒業までの数か月間は、コンスタントに時間いっぱい利用されるようになり、通勤訓練もされていました。ヒカリのアトリエで過ごされた1年間の、ご自身のご経験を、今、新しいご利用の方々の創作活動に寄り添いながら、伝えてくださっています。

スタッフも日々、ご利用くださっているお一人おひとりから学ばせていただき、新しい視点を増やしています。



活動のこれから

設立から一年、スタッフの育成や環境整備、ご利用の方々お一人おひとりへのより良いサービス提供のための勉強等、基盤づくりを進めて参りました。これから的一年は、ご利用の方々の活動を広く皆様にお伝えしていきたいと思っております。そのために、どなたでも参加できるワークショップや、地域の店舗や公の場などの作品展や販売をして参ります。また、現在のご利用の方々の作品を、さらに魅力的なものにブラッシュアップして、ヒカリのアトリエのブランドとしての価値を高めて参ります。福祉の世界にとどまらず、個と個、個と公、個と民、等、様々な出入り口を、社会に開いていきたいと考えております。

アートで繋がる

障がいのある人の表現活動を支えている福祉サービス事業所は、県内にも以前から存在していました。新しい表現が生まれる瞬間に立ち会える感動、障がいのある人の表現の魅力、支援の喜びや学びを、所属や立場を超えて共有し、福祉の現場や関係性をクリエイティブなものに変革していくこと、アートのエッセンスで隔たりのない未来を創っていくよう、福祉の現場から発信を続けていきたいと思っております。また障がいのある人の多彩な表現を、新しい価値として社会へつなぎ、社会そのものを多様性のある豊かなものにしていくことを目指していきたいと思っております。

寄付のお願い

特定非営利活動法人インクルーシヴ・ジャパンは、皆様からのご支援で運営しております。活動に興味を持っていただき、応援したいとお考えの方がいらっしゃいましたら、寄付という形でも活動を支えていただくことが可能です。皆様からいただいたご寄付は、画材や素材の購入、展覧会開催、図録作成、ワークショップ開催など、ご利用の方々の日々の活動のため、また、活動を社会につないでいくために、大切に使わせていただきます。また、展示スペースの提供や、アートやクラフト作品のリースのご契約等、様々な形でのご支援も歓迎しております。ご支援いただいた方へ、ご利用の方が心を込めて制作しているサンクスカードをお送りし、会報誌へのお名前の掲載（掲載の可否をお知らせください）をさせていただきます。また、お礼のリターンをご用意しています。例）3,000円～ヒカリのアトリエ オリジナルカレンダー 1,200円相当、10,000円～ヒカリのアトリエワークショップに1回ご招待、など。ご協力いただける方は下記までご連絡ください。折り返しこちらからご連絡させていただきます。

法 人 概 要

法人名	特定非営利活動法人インクルーシヴ・ジャパン		
事業所名	インクルーシヴ・松山 ヒカリのアトリエ		
所在地	〒791-3163 愛媛県伊予郡松前町大字徳丸字松ノ西 1208 番地 4	ファックス番号	089-909-6557
電話番号	089-909-6556	ウェブサイト	http://inclusive.jp/
メールアドレス	hikarino_atorie@inclusive.jp	理事	吉野内直光 理事：吉本真弓
役員	理事長：松岡邦彦（医学博士）	理事	吉野内直光 理事：吉本真弓
社員	鶴井雅子 橋本加代子 工藤冬里 工藤礼子 渡邊彩 三好明子 青山俊子		
お振込先	特定非営利活動法人インクルーシヴ・ジャパン		
四国銀行	松山支店 店番号 501 口座番号 5165119		
伊予銀行	古川支店 店番号 142 科目 1 口座番号 1522127		

